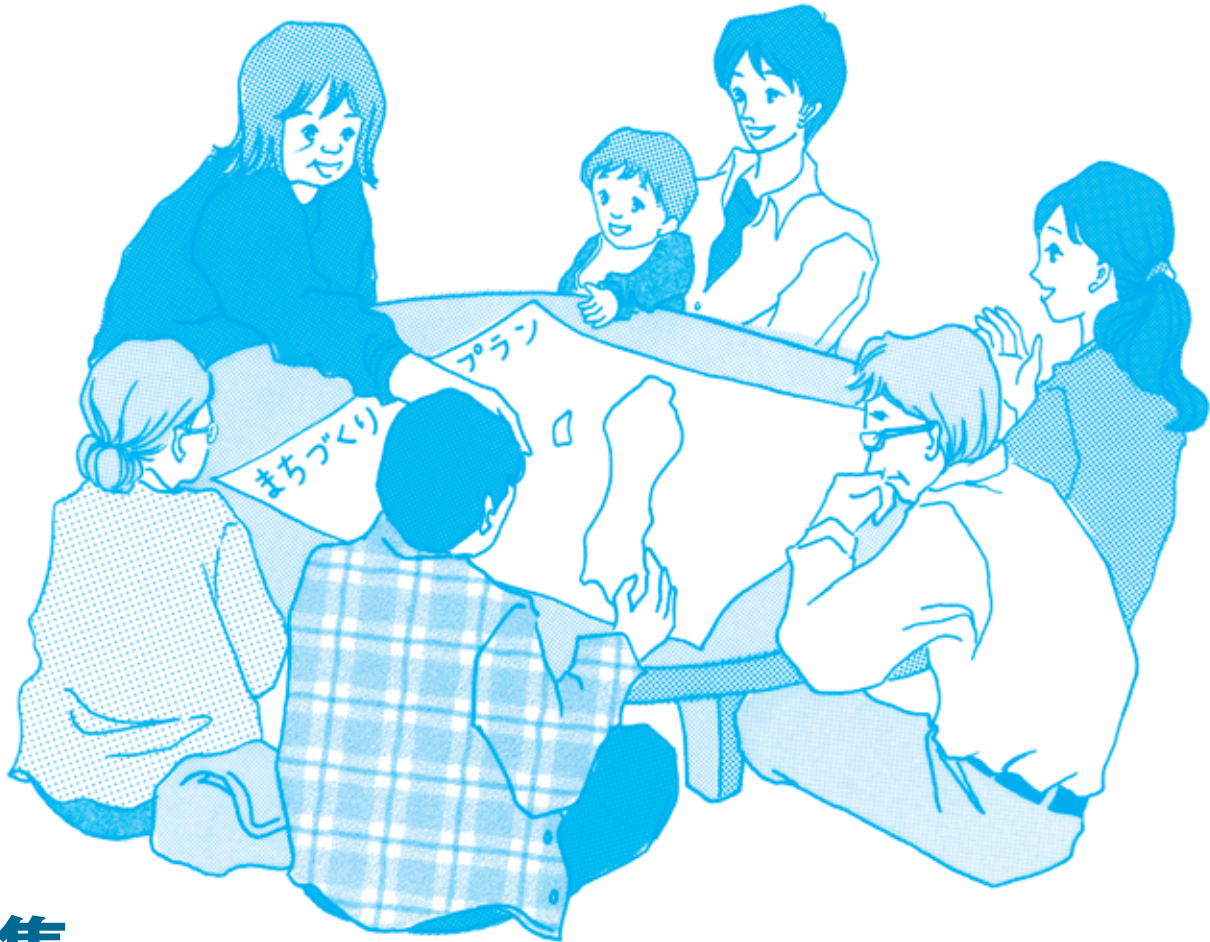


男女共同参画社会へ向けての啓発誌

しまねの  
女と男  
ひとひと



特集

ひとひと

# 女と男で未来を拓くまちづくり

- 「女がまちを変える日～男女共同参画で地域を元気に！～」  
広岡守穂さん(中央大学法学部教授) ..... 2
- 事例紹介 まちづくりに女性の視点を！ ..... 4
- リレーコラム ..... 6
- データで見る男女共同参画 ..... 6
- 講座レポート ..... 7
- 活動報告 ..... 8



あすてらす

# 特集 ひとひと 女と男で未来を拓くまちづくり



## 女がまちを変える日 ～男女共同参画で地域を元気に！～

中央大学法学部 教授 広岡 守穂

昨年の東日本大震災では、多くの方が犠牲になり、原発はじめいろいろな問題に今も苦しんでいる方々のことを思うと本当に心が痛みます。私もボランティアで東北に入りましたが、避難所や仮設住宅での様々な問題の中には、決して報道はされないものの男女共同参画の視点で見ると深刻な問題があることに気づかされました。以前より随分改善されたとはいえ、家族関係や地域社会が男性中心で、男女の間に格差があるということは、平時においてはあまり意識されず当たり前のように生活の中に隠れていますが、災害などの非常時に最も露骨に現れます。ここでは、震災時の例を糸口に、これからのまちづくりにおける課題とその解決方法についてお話しします。

### 1. なぜ、男女共同参画のまちづくりが必要なのか～東日本大震災にみる男女の問題

避難所の管理・運営は、公民館長や自治会長など比較的年配の男性がなることの多い地域の役員が任せられます。このようにリーダーが男性ばかりだと、男性中心に物事を進められるため、共同生活において着替えや授乳などへの配慮不足等、女性たちは窮屈な思いを強いられることとなります。ある避難所では世帯単位のスペースを仕切る衝立を使用しませんでした。そのため女性は着替える際に家族が毛布で囲うなど苦労しました。衝立を希望しても、「避難所全体が家族のようなものなんだから」と聞き入れてもらえなかったそうです。

やがて瓦礫の撤去が始まると、男性たちは朝から出かけていきました。残った女性たちも朝早く起きて朝食を作り、男性たちを送り出して洗濯をし、一日中食事を作って食器を洗って働きました。ところが、男性にだけ日当が支払われ、女性には一銭も支払われなかったのです。男性は瓦礫撤去が仕事として認められ収入を得る一方、女性の食事作りや洗濯、掃除など避難所内での家事的仕事は無報酬のボランティア（アンペイド・ワーク）、これはまさに「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識の最たるものです。この場合、男性の日当を半分にしてでも女性に日当を支払うのが筋だと私は思います。

このように大きな災害を受けた時には、日頃から伝統的、体質的に持っているものが露呈してきます。普段人々が特に気にしていなかった男性中心の社会のあ

り方や、日常的に染みついている役割分担意識や固定観念など、地域が抱える男女の問題が一気に吹き出してくるのです。だからこそ、男女は日頃から対等な関係をつくっておかなければなりません。そのためには、今まで当たり前のように思っていたことを見直し、女性もまちづくりの主体となる男女共同参画のまちづくりをすすめていくことが必要なのです。

### 2. 地域を変えるためには？ ～女性のアイデアを活かそう！

とはいえ、現在の日本をみると男性偏重の政治や男性（夫）を主たる稼ぎ手とする世帯をモデルとした社会保障制度など、社会全体のシステムが男女平等とはなっていません。このような状況の中では、社会全体のシステムを変えることもさることながら、私たち地域社会に暮らす一人ひとりが、その地域で起こっている問題解決のために、まずできることから取り組んでいくことも大事です。地域の中で男女が対等であるためには、女性が日頃からしっかりと存在感を発揮し、アイデアと実行力に基づく決定権を持つことが不可欠で、そういう地域社会につくり変えていくことが、いずれは社会全体をも変える力になるのです。

例えば被災地の岩手県では、もりおか女性センターに勤務する女性が発起人となって、買い物に出るのが困難な仮設暮らしの人々、主に高齢者の方々を対象に電話一本で御用聞きをする買い物代行サービスが行われています。現在スタッフは全員被災者で、地域で雇用を創出する女性たちの仕事おこしの好事例としても



広岡 守穂(ひろおか もりほ)

●プロフィール

石川県金沢市生まれ。東京大学法学部卒業。専門は政治学、日本政治思想史だが、現代日本の社会現象に幅広い関心を持ち、男女共同参画、NPO、子育てなどさまざまな分野で発言している。NPO推進ネット理事長（現在顧問）、佐賀県立女性センター・アバンセ館長など歴任。主な著書に『男だって子育て』（1990.岩波新書、ベストメン賞受賞）、『私たちの自分育て』（1998.講談社）、『父親であることは哀しくも面白い』（2001.講談社）、『妻が僕を変えた日』（1992.フレーベル館）ほか。近著『政治と自己実現』（2012.中央大学出版部）は、近刊の『ジェンダーと自己実現』、『市民社会と自己実現』と合わせ、研究の集大成となる3部作の第1弾。

注目されています。

また、富山県富山市には、看護師の女性が始めた「このゆびとーまれ」という大変有名な福祉施設がありますが、この小規模多機能住民参加型といわれる施設は、高齢者と幼い子ども、障がいのある人々が一緒に利用できるもので、同様の施設が今や富山県内に約30ヶ所、全国に何百ヶ所も広がっています。さらに、厚生労働省の地域子育て支援事業の一つに「つどいのひろば（ひろば型事業）」<sup>(注)</sup>がありますが、モデルとなったのは若い母親を中心とした子育てサークルによって運営される横浜市の施設「ビーのビーの」です。

これらの事例はどれも同じように根っこは女性の活動です。家事や介護、子育てなどこれまで女性が担うことの多かった分野で、一人の女性のアイデアから新しい事業が生まれ、新しい社会のシステムが創られています。これらの元となったアイデアは、行政主導でも、男性だけでも、なかなか出て来ないものです。女性たちが自身の経験を活かしてアイデアと実行力を発揮することによって、地域の問題解決につながったと言えるでしょう。

地域、そして社会を変えるためには、何年かに一度投票に行き自分たちの代表を選ぶことももちろん大切です。しかし、それと同時に、誰かが事業や活動を始めようとし、そのアイデアに共感する人がいて活動がスタートし、まわりがそれを支援し、本当に良いものならばあちこちに広がっていく。そうして新しい社会システムができてゆくという、草の根レベルからのダイナミックな動きも大切です。これこそ本当のデモクラシー（民主主義）です。いわば社会システムをつくるデモクラシーです。そして、これからそれを担っていくべきは女性たちです。なぜなら、今地域社会が抱える少子化や高齢化はいずれも女性に密接にかかわる問題だからです。女性の事業活動がどんどんおこって、それが新しい社会システムとなって定着していく。男女共同参画はそういうことによって進むのだと思います。

### 3. これからの地域社会

#### ～女性が主体となるまちづくりを目指して

少子化の3つの原因は①未婚率の上昇、②晩婚化（初婚年齢の低下）、③夫婦の出生力の低下と言われますが、もっと踏み込んでいえば、今の若い女性たちは、子どもが生まれたら自分が大変な苦勞をすることが容易に想像できるから少子化が進行するのでしょうか。そのため、女性が働きながら余裕を持って出産・子育てができる環境を整えることが不可欠で、そうした社会づくりに女性自身が主体的に関わってこそ問題解決につながります。

次に、高齢化も女性とは切っても切れない問題です。まず介護については、男性の介護者が増えてきたとはいえ、まだまだ妻や娘、息子の妻など女性にかかる負担は大きいものです。また、平均寿命は女性の方が長いので、介護施設の利用者のうち7割が女性です。将来的に夫よりも妻が一人残される可能性が高いですが、男性に比べ低年金の女性は老後一人で生計を立てるのが非常に厳しい状況となっています。これらについても、女性たち自身が声をあげて何かを始めたり、事業を起こすなど、問題解決のために主体的に参画してこそ、高齢化に対応した社会づくりの可能性は高まるのです。

繰り返しますが、まちづくり、社会づくりを進めるうえで、男女共同参画の視点は不可欠です。この大前提を踏まえて、決して男性だけでは解決できない様々な問題を解決し、不平等感なく誰もが住みよい社会に変えていくためにも、女性ももっと主体的に地域に参画し、男性と一緒に力を発揮していくことが今求められています。

<sup>(注)</sup>常設のひろばを開設し、子育て家庭の親とその子どもが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語りあい、相互に交流を図る場を提供するもの。

※平成24年6月4日(月)に「男女共同参画お届け講座」でお話された内容をもとに編集・加筆いただいたものです。



## 事例紹介：まちづくりに女性の視点を！

### 出雲市中央通り商店街 理事

かねもと みちこ

## 金本 道子さん(出雲市)

出雲市今市町<sup>いまいちちょう</sup>で画廊を経営する金本さんは、女性のいなかった商店街の理事会に理事として参画したことをきっかけに、歴史と文化を活かした出雲のまちづくりをすすめるため、商店街を中心に活動されています。

(H24.10.3 取材：(財)しまね女性センター 漆谷佑美子)



#### —理事に就任された経緯は？

2002年頃、出雲市駅と国道を結ぶ出雲大社方面への道路の拡幅工事計画にともない、私たちの商店街を含め官民協働で新しい道路のあり方を検討することになりました。それまでは全員男性の理事会が商店街を動かしていましたが、当時の理事長が女性の意見も必要だと、私のところに理事就任のお願いに来られたのです。慣れていないこともあり男性の中にたった1人だと不安だったのですが、ほぼ同時期にもう1人女性の理事が入られ、2人いたことで意見も出しやすく心強かったです。その意味では就任当初の苦労はほとんどなかったのですが、会議を進めていく中で、女性と男性はこうも捉え方が違うのかと段々感じるようになり、意見がまとまるまでには苦労しました。

#### —女性と男性の捉え方の違いから、どのようなご苦労があったのですか？

出雲市の中心部なので、観光客へのPRもできる道路のコンセプトを考える中で、私は出雲國風土記や古事記など神話を活かしたまちづくりを提案しました。男性たちは、出雲弁や出雲そばなど出雲名物を活かそうとの意見が多く、少数派の私の意見には関心がありませんでした。名物も良いのですが、もっと古代から続く出雲人の心を表し、精神的な柱となるようなテーマを設ければ、そこから造形や飲食等様々に広がっていくと思い、根気強く話し合いを重ねました。紆余曲折を経て最終的には賛同が得られ、今では神話を題材にした4体のブロンズ像が建立されています。男性は過去の成功例を元にするなど現実的な意見を言われるので、感覚的に意見を言っても受け入れられないのだなあとこの時に実感しました。

また、道路の植栽に関しても、女性は春の芽出しが愛らしく、やがて白い花が咲き、秋には赤い実をつける落葉樹の山法師を希望しましたが、男性たちは「本当に育つかね」「街路樹といえば葉の落ちない楠の木だ」「落葉樹は手入れや掃除が大変」と意見が合いませんでした。やはり男性は現実に即して、論理的に意見を言われるので、良い結論を見出すには裏付けをもって話し合いをするしかないと思います。全国の自治体の街路樹の事例を調べました。すると山法師を植えている例が何件かありましたし、手入れや経費の面でも実現可能と示すことができ、楠の木と山法師を混合で植えることに落ち着きました。

#### —男女共同参画で造られた新しい道路をきっかけに、地域が変化してきたのですね。

2人の女性理事を通して、地元の女性の声が理事会に届くようになったことが大きく、結果的に地域が変わっていったと思います。理事になるまでは、ただマイペースに自分の店を営業するだけでしたが、今はまちづくりに女性の意見は欠かせないと思い、理事を続けています。目に見えて変わったのはやはり道路の植栽で、街路樹の下に出雲國風土記に載っている草花を植えようと、当時商店街の女性有志で「花と緑の会」を結成してずっと手入れを続けてきました。ところがそのうち男性たちが、植栽のことは女性に任せておけばいいと無関心になってしまったので、これはまずい、一緒にやらなければと思って昨年度この会を解散し、今年から商店街全員が手入れにあたるようにしました。進歩のための発展的解散なので、男性も関わりやすい形で新たな活動につなげたいと思っていますところですよ。

#### —現在の活動と、女性の視点を取り入れたまちづくりを進めるコツをお聞かせください。

今市町の5つの商店街で商店街連合会として季節ごとに春はひなめぐり、夏は七夕まつり、秋は夢フェスタ、冬はイルミネーション飾りと、イベントを開催しています。このうち春のイベントでは、女性有志で「町家のひなまつり実行委員会」を結成し毎年文化の香りのする企画を実施しています。連合会の会議では、男性からはイベントという飲食、ゲームをしようといった意見が多かったのですが、女性たちはひなまつりの持つ歴史的な側面やエレガントさを伝えたいと思い、十二単の着付け体験や御節句雛膳のもてなし、お話会、お茶会など企画しました。もちろん飲食やゲームがあってもいいし、無理に一本化することはない、私たちは女性の視点で町に賑わいを創出しようという気持ちで実行委員会形式にして動き出し、もう10年続いています。ここ2年は「しまね女性ファンド」も利用させてもらって活動しています。

商店街の経営者には女性も男性もいて、同業種でも視点が違えばやり方も全く異なります。女性、男性、両方の視点があって、お互いの意見を尊重しながら本気でまちづくりに取り組めば、おのずと男女共同参画のまちづくりができるのではないかと思います。これまでの活動を通して、それぞれが得意分野と経験を持ち寄ることで、良い関係で物事が動くと感じていますし、それが長く続ける秘訣だと思います。

## にしき まち やすぎ錦町自主防災隊(安来市)

安来市錦町地区の「やすぎ錦町自主防災隊」は、東日本大震災を契機に平成23年6月に立ち上げられた地域自主防災組織です。日頃から男女が協働することを意識しながら、災害時の態勢づくりと思いやりのあるまちづくりに力を入れており、今年度は女性が隊長を務めています。隊長の安達美栄さんと、副隊長で島根県男女共同参画サポーター、島根県男女共同参画審議会委員でもある矢削重紀さんにお話を伺いました。

(H24.9.27 取材:劇しまね女性センター 漆谷佑美子)



矢削 重紀さん & 安達 美栄さん

### ——隊長の安達さんはじめ、女性が活躍されているようですね。

安達 防災隊はまだ発足して間もないため、2～3年は自治会長が隊長を兼務することになっているのですが、この自治会長は輪番制で、今年度は私の家の番でした。夫の体調が悪かったことと、震災後のこのタイミングで、自分も何かしなければという思いもあって、私自身が自治会長と防災隊長をお引き受けしました。

矢削 やはりこのような場面では尻込みをする女性が多いと思うので、安達さんが申し出てくれたときは本当に嬉しかったです。他にも女性に役員に就いてもらうよう積極的に呼びかけ、現在は5人の小隊長のうち1人と、会計を女性が務めています。この小隊長は女性問題を担当していて、特に夜間女性を犯罪から守るための防犯灯の設置・点検を実施したり、災害時はもちろん、日頃から防災に関して女性の意見を聞くようにしています。

### ——防災隊では、具体的にどのような取組をされていますか？

安達 年間スケジュールを立てて住民参加型の防災訓練や避難訓練を中心に行っていますが、6月には地区の子ども会、老人会と一緒に、町の危険な箇所を探しながらごみ拾いをしました。異世代がコミュニケーションを取りながら歩くことで、交流を図りつつ危険な箇所を見つけて直していくのが目的ですが、やはり老若男女、いろんな立場から見ることが大切だと実感しました。例えば、あの場所は子どもがよく遊んでいるから溝蓋があった方がいい、というのは普段から子どもを見ていることが多い女性でなければ気がつきません。

矢削 9月には防災訓練を行い、消火訓練をはじめ心肺蘇生、AEDの使用法、簡易担架の作り方を学びました。また、町内には消火栓がありますが、初期消火のため有事の際には誰もが使えるようにしておきたいという思いがあって、日中一人で家にいることの多い女性が消火栓からホースをつないで初期消火できるように、今後女性中心の講習会を企画しています。

### ——安達さんは女性の隊長になられて、大変だと思われたことはありますか？

安達 隊長、自治会長になって大変だったことは、組織を運営するノウハウを持っていなかったことです。自治会内には隣保班というのがいくつかあって、この班長は女性が務めることが多く私も経験があったのですが、班長の仕事

は回覧の案内、自治会費の集金等、実働的なことばかりです。これまでは自治会の総会に出る機会もなく、何がどうやって進められていたのか全くわからない状態だったので、前年度までの記録を見たり、矢削さん始め経験者のみなさんの力を借りながら進めています。私は新米なので、先輩の男性方にわからないことは率直に聞いています。

今は、本当にやってみて良かったと思っています。今まで私はあまりに無知すぎました。運営など様々なことがわかってくるにつれて、先輩の努力とみなさんの協力、町や住民の息づかいが見えてきたというか、人間としての幅や世界が広がったなあと感じています。

### ——女性が代表になること、地域に参画することについてアドバイスをお願いします。

安達 女性は謙遜することが美德という考え方があって「私が代表なんてとてもじゃない」という人が多く、やればできるのに本当にもったいないと思います。そういう時に「いや、あなたでなければ」「あなたにやってもらいたい」と周りが、特に男性が背中を押してあげることが大切です。私の周りにはいませんでしたが「女に何ができる」と思っている男性がいることは問題です。

また、女性には面倒なこと、ややこしいことに首を突っ込みたくないという面もあるので、能力がある人には、これまで役を担ってきた男性方が「自分たちがサポートするからぜひ一緒にやろう」と声をかけてもらいたいです。女性自身のやる気もさることながら、そういう代表を経験されてきた周りの男性のサポートがとても大事です。代表が女性であろうと、男性であろうと、その人を中心に日頃からみんなで協力態勢を整えておくことが必要だと思っています。

矢削 これまで女性は、家庭だけでなく地域づくりの場面でも男性の後ろに控えて影で支えることが多かったのですが、これからは、そうではなくて女性も同じ目線で一緒にやっていこうよという風潮を作り出すことが大切だと思います。

安達 特に防災隊は立ち上げて間もないので関わりやすいと思いますし、多くの女性にも役員を経験してもらいたいです。1年目は仕事を覚えるのに精一杯なので、その人のもつ色を出すためにも、欲を言えば2年やるのがいいですね。女性のみなさんにぜひリーダーにチャレンジしてもらいたいです。

## ワーク&ライフの相乗効果をこれからの活かす

私が団長を務める「まちなみ探偵団」は、日本の近代建築の一翼を担ったと言われる石州左官が残した“鏝絵（こてえ）”の調査、情報発信を通して、見過ごされがちな地域資源の存在を人々に伝える活動を行っている。

平成7年10月のある日、グループの発足にあたって代表を決めることになった。「若い女性の方が話題になるから、代表は福ちゃんがやれよ」という仲間の一言から、その場の勢いで団長を拝命することになった訳だが、これが功を奏してか、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌と取材や出演、執筆依頼が次々と舞い込んできた。

当時、県内でも地域活動で注目される女性はいたが、建築関連の分野では私のような30代の素人が代表になることは稀であり、大々的にマスコミに取り上げてもらったお蔭で、それまではほとんど知られていなかった鏝絵や石州左官の価値は高く評価されるようになった。

あれから17年、国、県、市、民間企業等からの支援もあって、全国鏝絵サミットをはじめ、ホームページ

の開設、案内人養成講座、絵本の出版まで実現することが出来た。この間、事業の企画、資金調達、広報、外部交渉など、事業の核となる部分を担い続けたことにより、名実ともに代表となれたと感じている。

私にとって地域活動は、この町に暮らす市民としての使命を果たすとともに、仕事に活かせる創造力、調整力、チームワークなどを培う貴重な経験の場である。近年、県内でも女子会と称する若い世代の女性たちで構成されるグループが活発な活動を展開し始めている。50代半ばを迎えた私の次のステージは、複数のNPOや任意団体に関わるようになった県内外のネットワークを社会的企業とすることかもしれない。



財団法人しまね女性センター  
事業課副課長

福 岡 祐 子

### データで見る男女共同参画②

この数字  
ご存じですか？

1.3%

これは、島根県内の自治会における女性の会長の割合<sup>(注1)</sup>です。ちなみに、副会長であっても5.5%、さらに自治連合会の会長・副会長となると0%といずれも非常に低い状況です。意識調査<sup>(注2)</sup>では、「自治会などの団体の代表者は男性の方がうまくいく」という考えに対して肯定的な人は全体の58.2%で、性別で見ると女性63.1%、男性52.1%となっています。肯定割合の方が大きいとはいえ、4割の人が「女性の代表」に寛容であるのに実数が1割にも満たないのは、役割分担意識から「男性の代表」が当然とか、長年に亘る地域の慣習から特に問題意識を持たず「なんとなくそういうもの」とする風潮や、いざ女性がリーダーシップを執ろうとすると「女だてらに」と非難され協力を得づらいなど、女性が手を挙げにくい環境に問題がありそうです。

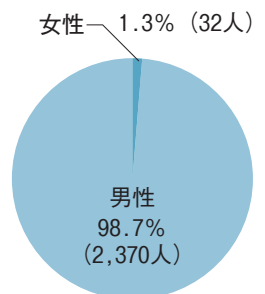
本誌5頁の事例紹介のように、代表経験のある男性を中心に周囲の人々の理解や協力態勢があり、地域全体で女性がまちづくりの主体となれるような環境が整えば、女性もリーダーシップを発揮しやすくなります。一方、女性自身も「都合良く女だからと役のがれ」(囧)と風刺されるように、「私(女)には務まらない」「責任を負いたくない、面倒なことはしたくない」などの理由で代表になることを敬遠するのではなく、まちづくりの主体者として積極的に地域に参画していきましょう。

(注1) 平成24年4月現在、報告があった市町村のみの数値  
(注2) 男女共同参画に関する県民の意識・実態調査(平成22年3月/島根県)



男女共同参画かるたより  
(財しまね女性センター作成、  
イラスト 玉井詞)

自治会における女性会長の割合



平成24年度  
島根県環境生活総務課調査

## 【男性のためのブラッシュアップセミナー(雲南会場第1回)】

# 「もしもの時に生きる！男女共生のまちづくり」

日時：7月7日(土) 13:00～16:00 [主催：雲南市、島根県、(財)しまね女性センター]

ブラッシュアップセミナーは、男性がこれまでの人生を振り返り、男女共同参画に対する理解を深めて、今後の人生を考えるきっかけとなるよう、実践を交えた連続講座として開催しています。「防災と男女共同参画」をテーマとした雲南会場の初回には、地域自主組織の役員を中心に約30名の男性が参加されました。奇しくもこの日、雲南市内では前日からの豪雨の影響で、河川の増水や土砂崩れなどが実際に発生し、参加者たちは災害に対していっそうの危機意識を持って臨みました。

(財)しまね女性センターの猪野郁子<sup>いのいっこ</sup>常務理事による講話と、やすぎ錦町自主防災隊の矢削重紀<sup>やはきしげのり</sup>副隊長、グランパ in 雲南の郷原剛志<sup>ごうし</sup>事務局長による活動事例報告の後、5つの班に分かれ、避難所運営ゲーム『HUG』を行いました。これは避難者(カード)を避難所に見立てた平面図に、いかに適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するか模擬体験するもの。避難所には年齢・性別・国籍など様々な事情や、病気・怪

我を抱える人々が続々と押し寄せてくるため、参加者は活発に意見を出し合いながら、一つひとつのカードを配置していました(写真①)。

当日は、聴講を希望された市内の女性2名も参加(写真②)。最後に班ごとの感想を発表する際、唯一女性が参加された班からは「女性が加わってくれたおかげで、女性や子どもにとって安全な場所への仮設トイレの設置や、男女別の洗濯物干し場、授乳室や女性用の着替えスペース等への気づきがあった」との発言があり、他の班の参加者たちも目からウロコ！従来の防災計画に女性の意見を取り入れ、危機管理体制を見直す必要性を実感できる講座となりました。



①避難者の配置に苦戦する参加者たち



②女性の視点が光る班

## 【働く女性のためのキャリアデザインセミナー】

# 「自分の働き方・生き方を創るキャリアの磨き方 ～自分を知り、なりたいワタシになる～」

日時：8月24日(金) 9:45～15:30 [主催：(財)しまね女性センター 共催：(社)島根県経営者協会、島根県]

職場で従来補助的役割を担うことが多かった女性が、仕事にやりがいを持ってその能力を発揮することができるようになるために、働く女性向けのセミナーを今年度から開催しています。今回紹介するセミナーは、若手女性向けに今後のキャリアを見据えるもの。講師には、女性のキャリアに関する様々な講師実績を持ち、受講者の意欲を引き出すファシリテーターとして各地で好評を得ている、(株)ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役でキャリア・コンサルタントの森野和子<sup>のりこ</sup>さんをお迎えし、キャリアプランを考えることで前向きに仕事に向き合う力をつけようと、16名の女性が熱心に受講されました。



講師 森野 和子さん  
(株)ライフキャリアデザイン・  
アソシエイツ代表取締役

4つのグループに分かれてのセミナーは、受講者それぞれの自己紹介を兼ねた講座の参加目的と到達イメージの確認からスタート。現在の仕事に関する課題や悩みを

出し合うグループワークを経て、自分自身にとっての「キャリア」というものの位置づけを再認識する大切さを学んだところで前半は終了です。受講生同士かなり打ち解けてきた後半では、仕事を通じた将来像をイメージするためにも、まずは現状での自分を理解・再発見するワークで、自身の弱みを強みに置き換える手法や、仕事に求められる様々な能力を自己評価して課題を見つける方法を学びます。そして、いよいよ仕上げとなる行動計画の作成は、具体的にイメージしやすく実行可能な計画とするために、比較的近い将来である「3年後」を想定したものの。受講生一人ひとりの目的や事情に配慮しつつ、厳しくも温かく皆をリードしてくれた講師のおかげで、明日から実際に何をするか宣言を盛り込んだ、自分なりの行動計画を全員が完成させて、充実した気持ちでセミナーを終了することができました。



和気あいあいかつ活発なグループ討議



## 公民館が取り組んだ男女共同参画事業 明日を照らす“わたし”の一步

～男女共同参画は一人ひとりの気づきから～

平成24年10月6日(土)、標題のような内容で公民館として初めて取り組んだこの講座、何人くらい参加していただけるか心配しながら、いろんな角度から周知しましたが期待したところまでは届かず、それでも41名の参加者で開催できました。

講師には(財)しまね女性センター事業課の福間祐子さんを迎え、最初に男女共同参画ってどういうこと？というお話から入り、なぜ男女共同参画社会の実現が必要か、男女の格差の背景にあるものを探るなど、とてもわかりやすくお話いただきました。様々なデータを示しながらのお話、参加者のみなさんも集中して聞いていました。講座の最後には全員で振り返りをし、福間さんに軽く体を動かす実技も加えてもらっ



講座の様子

たおかげで、住民のみなさんに楽しくお話を聞いてもらう機会を設けることができ「企画して良かった」の一言に尽きます。

公民館では、数年前から男女共同参画事業の一環として男の料理教室を企画・実施しているのですが、男女共同参画に対してある程度理解があるだろうと思っていましたが、当日のアンケートで男女共同参画について知っていたか尋ねると、意外と「言葉は知っていたが何のことか知らなかった」「全然知らなかった」などの意見が多く、もっと学習の機会を重ねていかなければと思いました。講座の内容については、全ての参加者が「楽しかった」「わかりやすかった」と答えられ、主催した公民館としては嬉しい言葉をいただき、第一段階はクリアできました。今回の内容は本当にわかりやすく、参加者のみなさんに喜んで学んでいただけたことを感謝しています。

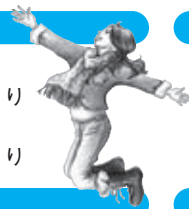
今後、第二、第三と積み重ねの研修を実施して、男女共同参画を地域のいろんな世代に定着させていきたいです。継続して公民館の年間事業に男女共同参画事業を取り入れ、利用されるみなさんに興味を持っていただけるように、企画・実施していきたいと思っています。公民館は地域の拠点であることを忘れずにこれからも頑張ります。

濱田市立周布公民館 館長 やま きき ひさまつ 山崎壽松

## 「しまね女性ファンド」はいきいきと活躍する女性を応援します！

### 対象となる活動

- ①魅力ある地域づくり
- ②男女共同参画社会づくり
- ③次代を担う人づくり
- ④水と緑豊かな環境づくり



### 助成基準

- ・団体等が自主的・主体的に企画実施する活動
- ・一般に開放され、地域への影響力、ネットワークの広がり大きい事業

### 対象となる団体

- ・島根県内の女性を中心となって活動している民間の団体やグループ
- ・構成員はおおむね10名以上で、半数以上が女性であること

### 助成内容

- ・対象経費の3分の2を助成(上限50万円)
- ・男女共同参画社会づくりの普及・啓発活動は対象経費の全額を助成(上限10万円)

### 平成25年度助成事業の募集が始まります！

(事業実施期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日)

受付期間：平成24年11月15日  
～平成25年1月15日

【申し込み・問い合わせ先】  
公益信託しまね女性ファンド事務局  
(財団法人しまね女性センター内)  
TEL 0854-84-5514



島根県立男女共同参画センター

あすてらす

〒694-0064 大田市大田町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)  
TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589  
ホームページアドレス <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/>

### 利用のご案内

(( 誰でも気軽に利用できます! ))

- 開館時間 / 9:00～19:00(貸出し施設については21:00まで)
- 休館日 / 毎週月曜日・国民の祝日・年末年始(12月29日～1月3日)